

# L国語問題題

## 注意

### 一 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。

解答用紙はすべて黒鉛筆または黒芯のシャープペンシルで記入することになります。黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出してください。

(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)

この問題冊子は20ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。

なお、問題番号は一～三となっています。

解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。

解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。解答用紙を折り曲げたり、破つたり、傷つけたりしないように注意してください。この問題冊子は持ち帰ってください。

### マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとつて採点する方法です。

- 一 マークは、左記の記入例のように黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
- 二 一つのマーク欄には一つしかマークしてはいけません。
- 三 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しきれいに取り除いてください。

### マーク例

①	1
○	2
●	3
○	4
○	5

(3と解答する場合)

※

大問一・二については著作権の関係により掲載できません。  
引用した文章は次の通りです。

- 大問一 角田光代『ロツク母』

二 左の文章を読んで後の設問に答えよ。ただし、設問の関係で返り点、送り仮名を省いたところがある。（解答はすべて解答用紙に書くこと）

（『孔子家語』による）

(注)

1 魯桓公——魯国第十五代国君。

2 敝器——傾いた器。

3 夫子——孔子のこと。

4 中——適量。

5 哽然——ため息をつくさま。

6 子路——孔子の弟子。

7 怂——臆病。

8 四海——四方の海の内。天下。

## 問

(A)

——線部(1)の読みとして最も適當なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 むしろ

2 かつて

3 ただ

4 けだし

5 いやしくも

(B)

——線部(2)の書き下しとして最も適當なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 夫れ物の悪きの満つる有らば覆らざるかな

2 夫れ物の悪きの満ちて覆らざるもの有らんや

3 夫れ物の悪むこと満つる有らば覆らざるかな

4 夫れ物は悪くんぞ満ちて覆らざるもの有らんや

5 夫れ物は悪くんぞ満つる有りて覆らざるかな

(C) — 線部(3)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 満ちた状態を保つ方法はありますか

2 満ちた状態よりもさらによい状態があるのですか

3 十分に準備をするにはどんな方法がありますか

4 十分に準備をするにはどんな方法がありますか

5 十分に準備をして待てば道は開けますか

(D) 空欄  に入る語として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 愚 2 恭 3 恥 4 疑 5 信

(E) — 線部(4)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 民の不満を効果的に解消する方法
- 2 功を得るための労力を軽減する方法
- 3 器の水をできる限り減らす方法
- 4 権力者の力を徹底的に削ぐ方法
- 5 おごらずに自らを戒める方法

(F) 本文の内容と合致するものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 「宥坐之器」に水をいっぱいに注いでもひっくり返さない者こそ君主にふさわしい。
- 2 「損之又損之」はよく知られたことばであったが、孔子は支持していない。
- 3 君主は「宥坐之器」を公開し、民に自らを戒めるための座右の器とさせた。
- 4 孔子は器から得られる教訓を述べて、子路の質問に対する否定的な考え方を示した。
- 5 孔子は桓公の廟にある「宥坐之器」が本物ではないことを見破り、弟子に水を注がせた。

三 左の文章は、『源氏物語』の「夕霧」の巻の一節で、夕霧（大将殿）が一条宮に住む落葉の宮との新たな結婚生活に入ると、それまで三条殿で夕霧と同居結婚をしていた長年の妻である雲居雁（三条殿、上）が子供たちのうちの何人かを連れて父（大殿）の邸に里帰りしてしまう場面から始まる。これを読んで後の設問に答えよ。（解答はすべて解答用紙に書くこと）

かくせめても見馴れ顔につくりたまふほど、三条殿、限りなめりと、さしもやはとこそかつは頼みつれ、まめ人の心變るはなごりなくなむと聞きしはまことなりけり、と世<sup>(a)</sup>を試みつる心地して、いかさまにしてこのなめげさを見じと思しければ、大殿へ方違<sup>(b)</sup>へむとて渡りたまひにけるを、女御の里<sup>(c)</sup>におはするほどなどに對面したまうて、すこしもの思ひはるけどころに思されて、例のやうにも急ぎ渡りたまはず。大将殿も聞きたまひて、さればよ、いと急にものしたまふ本性なり、この大殿も、はた、おとなおとなしうのどめたるところさすがになく、いとひききりに、はなやいたまへる人々にて、めざまし、見じ、聞かじなど、ひがひがしきことどもし出でたまうつべき、と驚かれたまうて、三条殿に渡りたまへれば、君たちもかたへはとまりたまへれば、姫君たち、さてはいと幼きとをぞ率<sup>(d)</sup>ておはしにける、見つけてよろこび睦<sup>(e)</sup>れ、あるは上を恋<sup>(f)</sup>びたてまつりて愁へ泣きたまふを、心苦しと思す。

消息たびたび聞こえて、迎へに奉れたまへど御返りだになし。かくかたくなしう軽々<sup>(g)</sup>しの世やと、ものしうおぼえたまへど、大殿の見聞きたまはむところもあれば、暮らしてみづから参りたまへり。寝殿になむおはするどて、例の渡りたまふ方は、御達<sup>(h)</sup>のみさぶらふ。若君たちぞ乳母<sup>(i)</sup>に添ひておはしける。「今さらに若々しの御まじらひや。かかる人<sup>(j)</sup>を、ここかしこに落としおきたまひて、など寝殿の御まじらひは。ふさはしからぬ御心の筋とは年ごろ見知りたれど、さるべきにや、昔より心に離がたう思ひきこえて、今はかくくだくだしき人の数々あはれるを、かたみに見棄つべきにやはと頼みきこえける。はかなき一ふしに、かうはもてなしたまふべくや」と、いみじうあはめ恨み申したまへば、「何ごとも、今はと見餉<sup>(k)</sup>きたまひにける身なれば、今、はた、なほるべ

きにもあらぬを、何かはとて。あやしき人々は思し棄てずは、うれしうこそはあらめ」と聞こえたまへり。「なだらかの御答へや。<sup>(注9)</sup> 言ひもていけば、誰が名か惜しき」とて、強ひて渡りたまへともなくて、その夜は独り臥したまへり。あやしう中空<sup>(注10)</sup>なるころかなと思ひつつ、君たちを前に臥せたまひて、かしこに、また、いかに思し乱るらんさま思ひやりきこえ、やすからぬ心づくしなれば、いかなる人<sup>(8)</sup>、かうやうなることをかしうおぼゆらんなど、もの懲りしぬべうおぼえたまふ。

(注)

- 1 かくせめても見馴れ顔につくりたまふほど——落葉の宮は夕霧を嫌つてゐるのだが、夕霧は無理矢理に落葉の宮のもとに滯在して夫婦として馴染んでいるふりをしている。
- 2 女御——雲居雁の異母姉。冷泉院の女御。里下がりする時はいつも大殿邸の寝殿を使つてゐる。
- 3 例のやうにも急ぎ渡りたまはず——いつもは里に帰つてもすぐ三条殿へ戻つてくるのであるが、今回はそうしない。
- 4 君たちもかたへは——夕霧と雲居雁との間にできた男の子たちのうちの何人かは。
- 5 例の渡りたまふ方は——雲居雁が里帰りする時にいつも使う部屋には。
- 6 御達——雲居雁に従つて大殿邸にやつてきた女房たち。
- 7 かくくだくだしき人の数々あはれるなるを——このようすに手のかかる子供たちがかわいいのだから。
- 8 なだらかの御答へや——穏やかなお返事ですね。あきれたお返事だと言いたいところを逆に出た皮肉。
- 9 言ひもていけば、誰が名か惜しき——結局、あなたの悪評が立つだけだ。
- 10 中空なるころかな——落葉の宮には嫌われ、雲居雁には家出されて、どつちつかずだなあ。
- 11 かしこ——一条宮。

問

(A)

——線部(1)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 新しい女と結婚するなんてありえないと夫は私をすつかり安心させていたのに
- 2 自分一人だけを大切にしてほしいと夫にずっとお願ひしてきていて
- 3 夫はどんなことがあつても離婚なんてしないと私に約束してくれたのに
- 4 夫と仲睦まじく添い遂げようとこれまで信頼関係を作り上げてきていて
- 5 夫が新しく妻をもうけて自分を見棄てるなんてことはあるまいと信じていたのに

(B)

——線部(2)の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 忙しい人
- 2 まじめな人
- 3 愚かな人
- 4 有能な人
- 5 浮気な人

(C)

——線部(a)～(c)の助動詞の文法上の意味として最も適当なものを、次のうちから一つずつ選び、それぞれ

番号で答えよ。ただし、同じ番号を何度も用いてよい。

- 1 過去
- 2 詠嘆
- 3 存続
- 4 強意
- 5 自発
- 6 尊敬

(D)

——線部(3)の現代語訳を五字以内で記せ。ただし、句読点は含まない。

- 1 夫婦喧嘩げんかを避けられるだろう
- 2 ひどい目にあわないだろう
- 3 悲しい思いをしないようにしよう

- 4 夫の失礼な態度を見たくない  
5 顔を突き合わせていたくない

(F) ~~~~~線部(ア)～(ウ)は、それぞれ誰の動作・行為か。最も適当なものを、次のうちから一つずつ選び、それぞれ番号で答えよ。ただし、同じ番号を何度も用いてもよい。

- 1 夕霧 2 雲居雁 3 落葉の宮 4 大殿 5 君たち 6 姫君たち

(G) —————線部(5)は誰を指しているか。最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 子供たち

- 2 姫君たち

- 3 女房たち

- 4 若君たちと乳母

- 5 女房たちと乳母

(H) —————線部(6)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 寝殿で女御まつりこと政ごをしているなんて。

- 2 女御に頼つてばかりいるのは不愉快だ。

- 3 寝殿で女御と遊んでいるとはけしからん。

- 4 寝殿に行つて女御に仕えるべきではない。

- 5 女御と結託して私をないがしろにしないでほしい。

(I) —————線部(7)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 形見の子供たちを見棄てられないはずだ。

- 2 互いに互いを見棄てることはできないだろう。

- 3 思い出のよすがを見棄てられるものか。

4 互いに互いを見棄ててしまうほうがましだ。

5 形見の子供たちを見棄てろと言うのか。

(J) — 線部(8)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 妻の家出

2 子育ての放棄

3 夫婦喧嘩

4 家族の揉め事

5 色恋沙汰

(K) 次の各項について、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ 雲居雁は女御と会つておしゃべりをしたが、気持ちが晴れることはなかつた。

ロ 大殿も雲居雁もこの一族の人々は皆、思慮深く謙虚な人柄だと夕霧は思つてゐる。

ハ 三条殿に残つていた子供たちは、夕霧が帰宅すると喜んでまとわりついてきた。

ニ 雲居雁が里に帰つてしまつたのは自分が悪いのだと夕霧は思つてゐる。

ホ 夕霧は、舅の大殿にどのように思われても一向にかまわないと思つてゐる。

【以下余白】

